

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和3年 11月11日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	栗山侑子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
幸島観察所
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
野生動物・行動生態野外実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
令和3年10月31日 ~ 令和3年11月6日 (7日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学幸島観察所、研究員、鈴木氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
野生動物を対象とした生態学・行動学的な研究の基礎について学ぶことを目的として、幸島観察所において7日間の実習を行った。対象動物は幸島に生息するニホンザルで、各自設定したテーマで調査・分析・発表をした。
スケジュール 10/31(日): 移動 11/1(月): 都井岬にて半野生馬の観察。観察所周辺にてカメラトラップの仕掛け 11/3(水): 幸島へ移動。サルの観察。等高線図・GPSを用いての山歩き。 11/4(木): サルの観察(午前: 浜辺、午後: 山)。貝の採取。 11/5(金): サルの観察。観察所へ戻る。 11/6(土): サル観察の結果発表。
今回の渡航では、都井岬でミサキウマを、幸島では各自観察テーマを設定してニホンザルを観察した。私は砂浜に集まる主群のオスを対象に、グルーミングを行う際の雌への接近行動を観察した。接近行動に限らず、群れメスからの群れオスの扱われ方には順位や群れに入った時期により明確な差があり、興味深かった。
幸島はヒト以外が文化を持つことが発見された場所である。今回そのイモ洗いは見ることはできなかったが、ムギ洗いは観察された。鈴木氏によると、ムギ洗いをする個体はまだ限られているそうだが、今後はイモ洗いのように、群れに浸透していくであろう。
ニホンサルのみならず、野生動物を観察すること自体が初めてであり、双眼鏡等の道具の使い方といった基礎的なことを中心に、多くのスキルや知識を得ることができたと思う。特に野生動物を追いながら山を登るということはなかなか自身のみで経験できることではないので、今回行うことができ大変良かった。また、今後自身の研究において、カメラトラップを仕掛けることを予定しているため、実際に動物の痕跡を探しながら仕掛ける場所や向きを自分たちで決めて設置したのは良い練習になった。
ニホンザルを観察するにあたって、観察テーマのこと以外にも、様々な発見があり非常に興味深かった。今回、観察のスキルを身につけるのみならず、野生動物の観察を通して自身の好奇心を刺激できたことやフィールドワーク(自身の研究では何度も延期になっている)の面白さを体感することができて良かった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図 1. 授乳中のミサキウマの親子



図 2. グルーミングをされる α 雄のシカ

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS より支援を受けて遂行できました。PWS プログラム及び、受け入れてくださった研究員の鈴木様、幸島での生活を支えてくださった名古屋大学 Ph. D. 井上様に心より感謝申し上げます。